

無責任飼い主に怒る！
大阪でスタートした「去勢手術車」はペットを救えるか？





▲「去勢手術車」を巡回させている「動物たちの会」の人たち ▶手術車の中で執刀する山口獣医師

大31万9千200匹、猫33万3千300匹。これは飼い主の都合により、「不用」となった犬や猫を、平成4年度中に全国の保健所などが引き取った総数である。この他にも、捕獲された犬が25万1千800匹いるので、合計すると1年間に90万匹を超える犬や猫が、「処分」されていることになる。「捕獲された犬のうち、元の飼い主に戻されたのは1万2千100匹。残りは里親を探したりしていますが、その数は報告されていません」（厚生省乳肉衛生課）

「処分」される犬や猫のうち、80%以上が生後間もない仔犬や仔猫。特に大阪市にいたっては、なんと97%にもほる。東京都などでは、この7年間で「処分」された犬や猫が半減しているが、関西では毎年横這いか逆に増加しているのだ。こうした不幸な仔犬たちを作らないためにも、不妊や去勢手術を行うことが最も効果的なのだが、実際には実施率は低い。

そこで、民間の動物愛護団体が日本で初めての移動「去勢手術車」を登場させた。小型トラックを改造して手術台などを装備したもので（写真右）、その発起人となった「動物たちの会」会長のドイツ人、レナーテ・ヘホルドさんが、その経緯をこう話す。

「生まれた仔犬や仔猫のめんどろを見られない飼い主は、きちんと不妊・去勢手術をするべきです。しかしながら手術代が高すぎてそのままにしている人が多い。そこで獣医さんに協力してもらい、低料金でできるようにしました」

日本獣医師会によると、手術料金を統一すると独禁法に触れるため、その技術料は獣医師の自由裁量とされているそうだ。一般に中型犬の不妊手術代は、「安く2万〜3万円」（東京獣医師会）というのだが、実際には「手術後の観察のための入院費や食費などをあわせて、2泊3日分で5万5千円から6万〜7万円」（都内のある獣医師）といったところが多い。料金が高すぎるため飼い主が、手術をおろそかにしてしまうのだ。

だが、「動物たちの会」を支援する神奈川県川島の山口獣医科病院の山口武雄獣医師によると、もつと低料金で手術を受けることが可能だという。

「午前中に手術すれば、その日のうちに帰宅できます。入院費などで獣医師が不当に料金を吊り上げているといえます」

「医は算術」の世界は、患者が人間の時だけとは限らないのだ。この「去勢手術車」では、不妊手術1万円、去勢手術5千円という低料金で手術を行っている。

現在大阪市を中心とした関西地方で活動しているこのような低料金の「手術車」が、全国的に広がればいいのだが、それよりもまず、飼い主がベットに対して責任感を持つことこそ大切なのである。